

作り替えによる歌づくりに着目した学習指導案

A Teaching Music Plan with attention given to Children's 'Faculty to Create Songs'

伊 野 義 博

Yoshihiro INO

I はじめに

筆者は、日本語で生活している日本の子どもの感性・伝統性・創造性を生かしたカリキュラム開発を目的として継続研究をしている。本稿は、その一環であり、平成17年3月13日及び14日に、新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校2年生を対象に計画した筆者自身による授業プランである。

授業は、附属学校の研究会において、公開を想定して立案・実践された。従って文章は、小学校の教師を対象とした学習指導案の形式をとり、いわゆる「ですます」調で書かれている。

題材名は「生まれてくるよ 自分のうたが」とした。ここからもわかるように、授業では特に日本の子どもの「歌を作り替える力」に注目している。この意味においては、小島の言う「作り歌のすすめ」¹⁾の考え方を授業実践につなげる一方法論とも考えている。

本稿の構成であるが、まず「歌を作り替える」といった様相についてわらべうたを事例に考え、それをもとに、授業の発想をしていく。そしてその結果を授業の構想に照射、反映し、具体的な授業実践の方法として提案していく。

なお、本研究は、平成17年度文部科学省科学研究費（萌芽研究）「義務教育9年間にわたる日本の子どものための日本伝統音楽学習カリキュラムの開発」（課題番号17653113 研究代表者：伊野義博）の研究成果の一部である。

II 歌を作り替える

もととなる「うた」があり、その「うた」を巧みに作り替えていく様相は、すでに子どもの世界に見ることが出来ます。

次に示すわらべ歌は、新潟県で採集された「しみわたり歌」の一部です²⁾。

A | しんばし | しょうや | しょうやの | かかが | いもにて | くりゃった |
かぶにて | くりゃった | (栃尾市)

B | しんばし | しょうや | しょうやの | かかが | いもにて | つんだして |
かぶにて | かくした | もっとくれと | いうたれば | しろめ | くらめで |
にらーんだ | にらんだ | (燕市)

AとBを見てみると、明らかに一方がもととなり、もう一方の歌が作り出されたことがわかるでしょう。

わらべ歌における無数のヴァリエーションは、このようにして歌が生まれてきたことを如実に示しています。小泉文夫氏が言うように「個々のわらべうたは、常に子どもの口から口へと伝播し、世代から世代へ伝承されていく過程で、集団的に創造されるのがもっとも自然なタイプ」であり、「どんなに新しく見えても、既成曲の何かの一部を利用したものが圧倒的に多い³⁾」のです。

このように、日本のこどもたちは、遊びを通してうたを歌い、それを十分に自分のものとしながら、そのもととなるうた「型」を模して、ともだちとのかかわりの中で新たなうたを生み出してきました。

III 授業の発想

このことに照らし合わせながら、小学校2年生を対象とした学習活動をいくつか考えてみました。

- いろんな言い方があるよ：「だるまさんがころんだ」のいろんなバージョン

「だるまさんがころんだ」の遊びをするとき、鬼の役の子どもはいろいろな言い方を工夫します。この言い回しがうまくいけば、ふりむいた際に、相手が動いている一瞬をとらえることができるかもしれないからです。どの音節も等拍に「だるまさんがころんだ」というのが基本型ですが、「だるまさんがころんだ」や「だるまさんが———」と伸ばし、「ころんだ」とまとめる言い方、「ラーララーラーラーソラー」のように節をつけて歌う場合もあります。一音の長さや高低を巧みにかえて様々に表現される「だるまさん」を発表します。

- うたの変身：「どれにしようかな」「おてらのおしょうさんが かぼちゃのたねをまきました」「さよなら三角またきて四角」のあとに何が続く？

これらのうたに続く文句は、人それぞれです。「どれにしようかな」は、例えば、二種類のケーキのどちらかを選ぶ、すなわち二者択一をせまられた場合に口から出てきますが、本当は右のケーキが欲しいのに文句の最後で指先が左を指した場合、次なる文句を新たに作りだして強引に右のケーキを得るなどということをしたりします。この場合、「チンカラホイノ スットントン」などというようにただちに適当な歌詞を付け加える必要があります。（そうすると、なんと自分の思ったケーキが手に入るではありませんか。）

「おてらのおしょうさん」では、たねをまいた後の状況を、次のように好きなように作り出して遊びます。

「は一ながさいてひーらいて エッサカサーのジャンケンポン」

「は一ながさいてみがなって くるくるまわしてジャンケンポン」

「は一ながさいたらかれちゃって にんぼうつかってそらとんで テーレービーのー まーえーでーチャンネルまわして ジャンケンポン」

子どもがどんどん自分のうたを作ることを期待できます。

「さよなら三角またきて四角」に続くうたも様々です。「四角はどうふ どうふは白い 白いは～？」といったように次から次へとうたをつなげていきます。グループでしりとり遊びのようにして言葉を作ってうたにしてみます。これら創作したうたを発表します。

- うたでおはなし：「〇〇さん」「なあに」の会話

「〇〇さん」「なあに」や「〇〇ちゃん あそぼうよ」「またあとで」のように、何か共通の話題を設定して会話文を作りだし、それにふしをつけて歌います。学習カードをつくるなどの工夫が必要かもしれません。さらにこれらを発展させて、授業中の会話や質問などそのすべてを「歌っちゃおう」と呼びかけ、音楽の時間を「うた」だけで進行するアイデアもおもしろいですね。

- 言いたい言葉をうたにのせて：「花いちもんめ」や「あぶくたった」のいろんな理由

「あぶくたった」では、「トントントン」「なんのおと」の後に続く歌詞として、鬼役の子どもが「かぜの音」とか「ちゃわんが落ちた音」とか様々に想像を膨らませます。このようにイメージを広げて新たな歌詞を生み出すことができると思います。「花いちもんめ」の「おかまかぶってちょっときておくれ」などの部分も同様でしょう。

- うたの伝言ゲーム：もとになる「うた」を次から次へと伝えていく。

前述の「じみわたりうた」の変容のように、一つのもととなる「うた」を一人ずつ（あるいはグループ毎）

どんどんとまるで伝言ゲームのように伝えていきます。この場合、「うた」が変わってしまうのは大歓迎で、むしろそうして生まれた「うた」こそが次の「正しいうた」となります。グループでやるものであれば、意識的に（例えば一カ所だけを）変える指導をし、それを伝えるのも良いかもしれません。教材例として、長岡地区で採集された「こもりうた」や川西町や十日町の「ほたる」などを取り上げたらどうでしょうか。

こもりうた1

ね ん ね ん ね ん ね ん ね ん ね ん や
 お て ら で オ こ ぞ う が お きょう よん で た
 た っ た り ね ま た り お きょう よん で た
 お とう さん が た ま げ て お ちゃ こ ぼし た
 お かあ さん が た ま げ て べん とう な げ た
 だ ら だ ら だ ら け や ご はん だ ら け

こもりうた2

ね ん ね ん こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ や ア お ら ち の も ー り は
 ど こ い っ た あ っ ち の や ー ま へ い も ほ り に い ー も が

・いろいろな歌い方があるよ：いろいろな「ほたる」

ある「うた」の歌詞や旋律を固定的に捉えるのではなく、いつでも変容可能な作り替える対象として学習します。例えば、次の楽譜に見られる「ほたる」は、川西町や十日町で採集されたものです。この二つは、いわゆる一般的に知られているものとは異なりますが、いずれも確かに土地の子どもによって歌われたものです。ここでは、フレーズの省略や付け加え、旋律の変化が、歌詞のリズムや抑揚の相互作用の中で自然に行われ、それぞれがまとまった「うた」として成立しています。

ほたる1

川西町上野

ほっ ほっ ほたる こい あっちの みずは にがいぞ こっちの みずは あまいぞ ほっ
 ほっ ほたる こい あんどん ちゃかちゃか ひかって こい ほたるの かあさん かねもちだ
 ひるは くさわらみをかくし よるは ちょうちん たきのぼり ほっ ほっ ほたる こい

ほたる2

十日町吉田

ほっ ほたる こい やまみち こい あんどん ちゃかちゃか とんでこい あっこの
みずはにがいぞ こっこのみずはあまいぞ ほ ほたる こい

こうした「ほたる」を例に、いろいろな自分たちの「ほたる」を作りだしてはどうでしょうか。その方法としては、例えば、「やまみちこい」の部分の歌詞を付け加えてふやす、「ほたるのかあさん」の部分の歌詞を新たに考える、「ほっ」や「こい」の数やリズムを変化させる、などです。うまくいけばたくさんの新「ほたる」が生まれるでしょう。

このような発想をもとに、授業を考えてみました。

IV 授業構成案

1 どのような題材か

「生まれてくるよ 自分のうたが」

いろいろなわらべうたや日常的な会話をもとにして、自分のうたをどんどん作り替える活動します。

2 なぜこのような題材か

ある型をもととし、それを個人の中に取り込み、模倣や反復をくり返しなが、新しい歌を生み出していくというのが、日本におけるうたの創出です。わらべうた、民謡、そして様々な民俗音楽などはこのくり返しにより生まれてきました。人々はくらしの中で実にたくさんの歌を自然な形で生み出してきたのです。

授業では、このようなうたを生み出すもととなる子どもの歌を作り替えるに注目し、たくさんの新しい歌を作り出していきます。

3 ねらいは何か

一つのうた（型）を作り替え、そこから新たなうたをつくりだすことがねらいです。

4 どのような流れになるか、用いる教材は何か

2時間の枠組みで以下のように構成します。

ユニット/時間	1 時間目	2 時間目
・わらべうた遊び	・もぐらどんのおやどがね、ずいずいずっころばし、キューピーさん、たけのこ芽だした、茶つぼ、はないちもんめ、だるまさんがころんだ、なべなべそこぬけ、だるまさんがころんだ、などから	
・うたの変身	・「おてらのおしょうさん」「どれにしようかな」のいろいろなうたの発表する。 ・「さよならさんかく またきてしかくしかくは～」のあとをしりとりのようにして歌う。	・「はないちもんめ」の「○○○○ちょっときておくれ」の部分をつくる。
・歌の伝言ゲーム（「ほたる」「こもりうた」）		・「ほたる」の歌を次々に伝えていく。 ・伝わったうたを発表し、その違いを楽しむ。

5 学習指導要領との関連はどうか

本授業は、学習指導要領の指導事項の多くに関係していますが、直接的には、以下の事項を考えています。
(下線筆者)

A 表現

- (2) イ 拍の流れやフレーズを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること。
- (3) ア 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
- (4) ア リズム遊びやふし遊びなどを楽しみ、簡単なリズムをつくって表現すること。

6 評価規準をどのように設定するか

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	一つのうた(型)をもとにして、新たなうたをつくりだす活動に意欲的に取り組もうとする。	もともになるうたの特徴を感じ取って、それらを生かした自分のうたの表現を工夫する。	もともになるうたの特徴を生かして、新しい自分のうたをつくらうことができる。
具体の評価規準	①続きのうたをつくることに意欲的である。 ②うたを伝える活動に興味を持って取り組んでいる。	①わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方を工夫している。 ②聴き取ったうたをもとに、自分の思ったうたを友達に伝えようとしている。	①わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方ができる。 ②聴き取ったうたをもとに、自分のつくったうたを友達に伝えることができる。

7 授業の全体計画、そして評価の計画と方法は？

時	ねらい・学習活動	具体の評価規準	評価のポイント	評価方法
1	<p>【うたの変身】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おてらのおしょうさん」「どれにしようかな」をいろいろな歌い方で遊ぶ。 ・「さよならさんかく」を歌い、グループでしりとりの続きを考える。 	<p>ア-①</p> <p>イ-①</p> <p>ウ-①</p>	<p>→「おてらのおしょうさん」や「どれにしようかな」友達と一緒に、身体動作をともなって、遊んだり発表し合ったりする。</p> <p>→しりとりを考え、ふしにのせて楽しく歌う。</p>	<p>身体の動き、リズム、言葉の生成の様子を観察</p> <p>しりとりの言葉を節にのせて歌う様子を観察</p>
2	<p>【うたの変身】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はないちもんめ」の「○○○○○○ちよっときておくれ」の部分をつくる。 <p>【うたの伝言ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わったうたを発表し、違いを楽しむ。 	<p>イ-①</p> <p>ウ-①</p> <p>ア-②</p> <p>イ-②</p> <p>ウ-②</p>	<p>→うたの特徴をつかんで、自分のうたとして発表している。</p> <p>→伝わったうたをグループとして完成させ、発表する。</p>	<p>活動の様子を観察発表・演奏による確認</p> <p>伝言の様子を観察グループ内での発表を聴取グループの演奏を評価</p>

8 実際の展開はどのようなになるか

1) 1時間目の学習

(1) ねらい

- ・わらべうたの特徴を感じ取り、付け足されたことばに合わせた歌い方を工夫する。
- ・聴き取ったうたをもとに、歌詞を作り、ことばに合わせて友達に伝える。

(2) 展開

学習内容【教材】	教師の働きかけ	児童の活動	評価規準【評価方法】等
うたの変身			アー① ・続きのうたをつくることに意欲的である。 イー① ・わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方を工夫している。
○わらべうた遊び ・既知のわらべうたで遊び、うたの特徴を捉える。 【「茶つぼ」「なべなべそこぬけ」「せっせっせのキューピーさん」「おてらのおしょうさん」】	○わらべうたによる遊びに誘う。 ・「茶つぼ」「なべなべそこぬけ」「せっせっせのキューピーさん」「おてらのおしょうさん」などのうたを児童とともに遊ぶ。 ・遊びや身体動作をつけて、繰り返させる。	○わらべうたによる身体表現や遊びをする。 ・二人で組んで、「なべなべそこぬけ」を遊ぶ。 ・茶つぼのできぐあいを教師に示す。 ・「せっせっせのキューピーさん」を教師に教える。 ・「おてらのおしょうさん」でじゃんけん遊びをする。	アー① ・続きのうたをつくることに意欲的である。 イー① ・わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方を工夫している。
○一つのうたの続きの表現 ・一つのうたを型として、その続きを作る。 【「おてらのおしょうさん」「どれにしようかな」「さよならさんかく またきてしかく」】	○わらべうたに新たな歌詞をつけて歌わせる。 ・「おてらのおしょうさん」「どれにしようかな」のいろいろな歌い方を紹介する。 ・「おてらのおしょうさん」か「どれにしようかな」のどちらかの歌の自分なりの歌い方を発表させる。 ・新しいオリジナルの歌詞も考えさせる。 ・「さよならさんかく またきてしかく」のしりとり歌を紹介する。 ・グループ毎に、続きのしりとり歌を創作させる。	○ひとつのうたに続きの歌詞をつけて、自分のうたをつくる。 ・いろいろな歌詞のうたを聴いたり、実際に歌って遊んだりする。 ・児童の日常的な遊びから、自分たちのうた（歌詞）を紹介する。 ・新しい歌詞で即興的に表現したり、考えた歌詞で歌ったりする。 ・グループの中で、「しかくは～」の続きのしりとりを考え、自分たちのしりとりうたをつくる。	ウー① ・わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方ができる。 【身体の動き、リズム、言葉の生成の様子を観察】

2) 2時間目の学習

(1) ねらい

- ・もとうたを生かして、自分のうたを作り、発表する。
- ・伝えられたうたをもとに、自分（たち）のうたを作って発表する。

(2) 展開

学習内容【教材】	教師の働きかけ	児童の活動	評価規準 【評価方法】等
うたの変身			
<p>○わらべうた遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたの特徴を捉える。 <p>○一つのうたの続きの表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もとうたの型をとらえ、それを生かして、自分なりのうたを作る。 <p>【「なはいちもんめ」】</p>	<p>○わらべうたで遊び、授業の雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で取り上げたわらべうたを中心に扱う。 ・「ははいちもんめ」を加える。 <p>○うたの続きの言葉を考え、節づくりをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ははいちもんめ」の一部の歌詞の作り替えをさせる。 ・できた歌をグループごとに発表させる。 	<p>○わらべうたによる身体表現や遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「茶つぼ」や「なべなべそこぬけ」「ははいちもんめ」を全員で遊ぶ。 <p>○歌詞を作り替えて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれ、「○○○ちょっときておくれ」の部分の歌詞を作り替えながら遊ぶ。 ・くり返し覚え、発表する。 	<p>イー①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方を工夫している。 <p>【観察】</p> <p>ウー①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたの1拍連続リズム、付点のリズムを感じ取り、ことばに合わせた歌い方ができる。 <p>【発表・演奏による確認】</p>
うたの伝言ゲーム			
<p>○グループによるうたの伝言ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほたる」をもとうたとしたうたの変容の様子を実感する。 ・「ほたる」をもとうたとした即興的なうたの作り方を体験する。 	<p>○ひとつのうたの型をもとにし、自分のうたとして再現に伝えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～6のグループを組み、縦に並ばせ、先頭の児童に「ほたる」を耳打ちする。 ・グループ毎に「ほたる」を耳打ちしながら伝えるよう指示する。 ・最後の児童まで、伝わったら、歌詞を書き留めさせる。 ・それぞれのグループの最後の児童に、伝わってきたうたを発表させる。 ・前の人とうたと多少変わっても心配しないでうたを伝えることができるように配慮する。 	<p>○教師や友達から伝えられたうたの概要をつかみ、自分なりに解釈して友達に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～6のグループに分かれ、先頭の児童が教師より耳打ちされた「ほたる」を次の児童に伝える。 ・他のグループにわからないようにして、自分の仲間だけに伝えていく。 ・歌詞を忘れてしまったり、節回しを間違えてしまったりしても自信を持って伝える。 ・適当に作り替えたりしながら伝える。 	<p>アー③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うたを伝える活動に興味を持って取り組んでいる。 <p>【伝言の様子を観察】</p> <p>イー②</p> <ul style="list-style-type: none"> ②聴き取ったうたをもとに、自分の思ったうたを友達に伝えようとしている。 <p>ウー③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったうたをもとに、自分のつくったうたを友達に伝えることができる。 <p>【グループ内での発表を聴取、グループ毎の練習と演奏を評価】</p>

注

- 1) 小島美子「作りうたのすすめ」日本民俗音楽学会第4回民俗音楽研究会における発表及び発表資料, 2005年12月18日
- 2) 伊野義博「新潟県のしみわたり歌」『新潟大学教育人間科学部紀要 第3号第1』2000年 pp.93-106
- 3) 小泉文夫『子どもの遊びとうた わらべうたは生きている』草思社 1986年 p.126